

九州の大学生協 PC 講座統一カリキュラムの取り組み

樋口直樹*1

Email: higuchi@kyushu-bauc.or.jp

*1: 大学生協九州事業連合

◎Key Words 大学生協, PC 講座, カリキュラム

1. はじめに

九州の大学生協では 2004 年より新入生を対象とした PC 講座を開催している。2015 年は 17 大学で実施し、全九州の受講者数は 4059 人である。これは全九州新入生の 17%に相当し、実施 17 大学の新入生数比較では 20%に相当する。また九州の新学期パソコン販売実績は 768 2台であり、バンドル率は 52%になる(PC 未購入者でも PC 講座申込者も若干いるので概算である)

本報告では、2年目を終えた九州での共通カリキュラム作りから得た教訓と課題を報告する。なお、本取り組みは当初「統一カリキュラム」と呼んでいたが、本カリキュラムを用いない会員生協(以下、各会員生協を「単協」と略)もあるなどの理由から、「共通カリキュラム」と名称変更された。本稿でも以後「共通カリキュラム」と呼ぶ。

2. 共通カリキュラムの背景

九州事業連合内ではカリキュラム作成について長年各単協の自主性に任されてきた。各単協では受講生に適したカリキュラムづくりができるメリットがあり、打合せや作りこみが自単協だけで完結することからこの方式で行ってきた。

一方で「同じような作業をどの単協もやるのは無駄」「スキルが講座スタッフの質によって上限がある」「カリキュラムづくりに膨大な時間がかかり、それ自体が目的になってしまっている傾向にある」との反省が出るようになった。

そこで、2013 年 9 月に、意思表示をした単協で統一カリキュラム(当時)を作り 2014 年講座より使用する方針を定めた。2014 年度に参加した単協は、北九州大、鹿児島大、宮崎大、西南学院大、琉球大の 5 単協であり、2015 年度はさらに熊本大が加わって 6 単協になった。その他 11 単協では従来通りの独自カリキュラムを継続している。

3. 共通カリキュラムのメリット・デメリット

共通カリキュラムのメリットとして、①分担してカリキュラムを作るので負担が減る。②他単協と交流し議論をしながら進めることでいわゆる「井の中の蛙」にならずにすむ、③単協間の講座運営レベルを比較しやすい、といった点が想定された。反対にデメリットとして、①単協独自性が薄れる、②広域での議論なので時間が制約される、が懸念された。共通カリキュラムの不参加単協の不参加理由もこ

の2点に集約される。

結果的にはデメリットを上回るメリットがあった。特にメリット②③において、講座スタッフが単協の垣根を超えた「他流試合」的な交流を繰り返すことで、競争意識が生まれ、講座のレベルアップに貢献できた。また、講座スタッフを監督する職員もそれまでのような孤独な状態から横の連携を重視することで精神的負担も軽減できた。

4. 共通カリキュラム制作のプロセス

2015 年に向けては、以下の通り 2014 年 5 月から準備に着手し、2014 年 7 月から総括を兼ねた制作作業を開始した。2015 年 2 月までに 1 泊 2 日の「共通カリキュラムタスク」を 3 回、さらに 1 泊 2 日の「PC 講座スタッフ研修会」を 3 回行い、合計 12 日間は集合して検討を繰り返し、その間、日常的にはサイボウズ Live を用い、意見・情報交換や相互チェック、コメントを行った。

(1) 準備段階(2014 年 5 月-7 月)

連合担当職員が各会員で実施している講座を見学し、巡回レポートを作成した。

その際の着目点は以下のとおり

- ①カリキュラム内容と教授手法、進行具合
- ②講師及び TA(チーティングアシスタント)の動き
- ③講座の雰囲気
- ④欠席者対策
- ⑤講義終了後の反省会の実施状況

(2) 第 1 回担当者会議

日程:2014 年 5 月 27 日

参加者:担当職員、事業連合担当者

- ①講座進行状況&出席率の推移
- ②キャンセル規定の交流
- ③講座における IT ツールの活用

(3) 第 2 回担当者会議

日程:2014 年 7 月 4 日

参加者:担当職員、事業連合担当者

- ①出席率調査
 - ②カリキュラム内容の理想と現実
 - ③受講生のミニテスト(初回と最終回の 2 回実施)比較
- ※次回までの課題
- ①受講生の感想文(200字)
 - ②損益計算

(4) 第1回 PC 講座スタッフ研修会

日程:2014年9月9日~10日

参加者:学生リーダー、担当職員、連合職員

- ①プレゼン大会「PC 講座の振り返りと課題」
- ②アップル製品学習会
- ③ナレローの使い方

(5) 第1回共通カリキュラムタスク

日程:2014年10月4日~5日

参加者:共通会員の学生リーダー、担当職員

- ①2014年講座の振り返り
- ②講座ごとの改善点の洗い出し
- ③今後のすすめ方

(6) 第2回 PC 講座スタッフ研修会

日程:2014年11月22日~23日

参加者:学生リーダー、担当職員、事業連合担当者

- ①プレゼン選手権「PC 講座を3分で紹介」
- ②PC 検定3級模擬試験受験
- ③事例研究「理系向けの PC 講座」

(7) 第2回共通カリキュラムタスク

日程:2014年12月13日~14日

参加者:共通会員の学生リーダー、担当職員

- ①スキルの絞り込みと決定
- ②共通テンプレート作成
- ③コンセプトシートの検討

(8) 第3回共通カリキュラムタスク

日程:2015年1月17、18日

参加者:共通会員の学生リーダー、担当職員

- ①模擬講座の実施
- ②スライド配布資料の検討

(9) 第3回 PC 講座スタッフ研修会

日程:2015年2月17、18日

参加者:学生リーダー、担当職員、連合職員

- ①模擬講座(各会員2講座)
- ②Office セットアップの手法研究

3回実施したPC 講座スタッフ研修会は共通カリキュラムへの参加/不参加双方の単協が参加することから、講座スタッフによるプレゼン大会やP 検模擬試験、事例交流など、PC 講座全体の底上げにつながるプログラムをメインに行った。

反対に、共通カリキュラムタスクでは、スキルの絞り込みと決定に大きな時間を割いた。具体的にはパソコン検定協会が定めている「3級相当」のスキル128項目について(例:「列の幅と行の高さを揃えることができる」など)、大学での必要度について取捨選択した。同様に P 検準2級相当104項目、P 検2級相当59項目についても、必要土井応じて加えていった。

5. 結果

上記プロセスを経て、共通カリキュラムが完成した。

参加単協間で共有した作成物は以下の3点である。

- ①コンセプトシート(講座の内容などを記述)
- ②講義用スライド(テンプレートを共有)
- ③配布資料(テンプレートを共有)

共通カリキュラム参加単協は PC 講座実施に際し、基本的にこれらの作成物をそのまま用いるが、大学のシステム等に合わせる必要がある場合等にはカスタマイズが行われた。

また、制作プロセスでの交流の中で、カリキュラムづくりにとどまらず、職員やスタッフ育成方法、欠席者対策など多岐にわたって、単協の垣根を超えて議論を進められた。カリキュラムという土台が共通化したことと、議論する機会が格段に増えたこと等により、積極的な議論が出来たことは大きな成果と考える。

6. 今後の課題

来期以降への課題は以下のとおりである。

①PC 講座スタッフ、学生リーダーの育成

講座スタッフは学生であり、通常2年間、長くても3年間で次世代に交代してしまう。せっかく力量がついてきても常にメンバーが入れ替わる上、十分なスタッフ数が確保できるかどうかは毎年の課題になっている。

②講座担当職員の管理能力のアップ

若い世代が多い講座担当職員に、20数名いる講座スタッフを統率するための管理能力の向上が求められている。PC やマネジメントに関する知識やスキルの向上、トライ&エラーを通じた経験の積み重ねが必要であろう。

③カスタマイズの調査

各単協のカスタマイズは、市販品にはないオリジナル性を確保する意味で重要であり、すでに「大学メールの使い方」「学部別レポートを書く際の注意点」など、その大学ならではの項目が扱われている。これらを調査し、商品性を高めるカスタマイズについて検討したい。

④時間管理

実際に顕在化した時間管理の問題として、研修会や日常のやりとりについて、終了時間やメ切を厳守させないと、いつまでもまとまらない事態に陥ったことが挙げられる。「より良いものを作りたい」という思いが高まるあまり、メ切日が過ぎても瑣末な問題を指摘しあう、といったことが散見され、対策が求められる。

7. おわりに

PC 講座は今後も変化し続ける。高校の情報教育の進捗度や、電子書籍の普及により、カリキュラムを柔軟に変えていかなければならない。もはや単協で対応するという段階を超えつつあるのではないか。その際に今回のようなスキームが生きてくると確信している。

参考文献

- (1) 北村他:「大学生協PC講習会の改善および『情報生活サポート』事業構想の提案」, 2014PC カンファレンス全国大会(札幌学院大学) 発表論文集, pp.338-341 (2014).